

三井住友信託銀行 社長メッセージ



新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大から2年が経過しました。罹患された方々やそのご家族に心からお見舞いを申し上げるとともに、医療現場に従事されている関係者の皆さまに感謝申し上げます。

昨年は、感染拡大防止に向き合い、時間や場所に左右されにくい業務運営を定着させた一年となりました。この間、新たな働き方や行動様式を押し進めたデジタル技術の持つ力には目を見張るものがあります。加えて、気候変動をはじめとする世界共通の社会課題に対しては、各国政府や企業が高い目標を掲げて取り組みを進めており、社会の安定的な豊かさを志向する動きも鮮明になってきました。

こうした潮流は、「社会的価値創出と経済的価値創出の両立」を経営の根幹に据える我々にとって、大きなチャンスです。重要な社会課題の一つである脱炭素社会の実現には、巨額な資金が必要ですが、公的セクターだけではまかないきれません。そこで、民間資金の導入が必要となり、産業界全体をカバーする金融機関に任せようというのが国際的な潮流となっています。また、脱炭素は個社の努力の積み上げだけでは限界があります。バリューチェーンを俯瞰して特定した最善の効果が得られるポイントへ資金を投入し、その効果をモニタリングしていくことが重要です。これが国際的に注目されている「インパクトファイナンス」です。当社はこの分野で、融資、株式投資、リアルアセット投資、ベンチャーキャピタルと業務の幅を広げると共に、水素や電池、化学、電力等の博士・修士クラスの専門家を採用し、科学的知見とインパクト分析を融合することで他社の追随を許さないビジネスモデルへ発展させてきました。今後ともインパクト創造の担い手となり、脱炭素に向けた実質的な貢献を果たしながら、産業界の資金ニーズと世界のESGマナーを結びつけることで、「資金・資産・資本の好循環」を創り上げていきます。

当グループは、2020年4月にパーパスを策定しました。私は社長就任をきっかけに、自らこのパーパスへ込めた思いや志を伝える趣旨で、「社長キャラバン」と題したオンラインミーティングを開催し、計26回、約12,000人の社員と「対話」の機会を設けました。社員と「当社が創造する理想の未来像」を描き一丸となって実行したい、という思いからスタートしたのですが、理想だけでなく目先の課題も含めた率直な意見から得られた気づきも多く、とても有意義な機会となりました。

私の信条は、「チームで勝つ」です。多様な社員とパーパスを共有し、ともに解決策を模索したいと考えています。「未来への責任を果す」「将来世代に先送りせず、我々世代が決着をつける」。こうした覚悟を持って、金融・社会課題に真正面から取り組んでまいります。